

掛川市森林組合 掛川市

薪で地域のつながりを創出

所在地 掛川市大和田320-1
業務内容 森林所有者でつくる協同組合
 森林経営に関する指導、林業資材や生活資材の斡旋／
 植栽、下刈、間伐等の森林造成事業／森林の測量、調査
 立木の買取、販売などを行う



概要 取組内容紹介

地域の木材を余すところなく活用するために「薪販売事業」に着手。生産の一部を地域の農業グループへ委託することで、安定した販売を実現。カーボンニュートラルへ貢献し、新たな地域の経済循環を創出する。他地域への展開も可能な仕組みとして取組んでいる。



環境課題の解決 薪の生産を地元農業グループに委託、安定した販売へ

環境ビジネスとしての注目すべき着眼点

同組合では組合員の山の森林整備や木材生産を行っている。丸太は品質に応じて製材所や市場、合板用材など、用途別で出荷する。その中でチップ用材の一部を「薪」として加工し、販売することで木材活用の幅を広げた。薪の生産は、森林組合職員が行うには安定生産に課題があり、作業手間もかかるため、ビジネスとしては難しかったが、地域の農業グループと連携することで安定した生産体制を確立した。組合側が材料となる木

材、チェーンソーや薪割機、安全装備、燃料や作業する場所といった環境を整え、農業グループ「作楽人」(6人)に生産を任せ、さくらびと。そうして年間を通じて安定的に薪を生産・販売する流れを作った。この仕組みが同地域のみならず、他地域でも広く展開できることを意識して考えられたことも、モデルケースとして注目すべき点である。

展望

地域の木材を余すところなくエネルギーとして活用することは、健全な森林を保持、CO₂排出量削減に寄与することが期待される。同時に、この取組のもっとも大きな効果は、農業グループをはじめとする地域内の人のつながりを深めたことである。農業グループは、シフトを組んで、本業の合間に楽しみながら薪を作り、副収入を得る。そして農作業に使う資材を森林組合で購入する。組合職員は農業グループが生産したお米を購入する。顔の見える関係による地域経済の循環は、今は小さいが今後さらに促進されていくと予想される。現在、薪の販売によって年間約500～600万円の売上がある。森林組合、作楽人、それぞれ利益はそれほど大きくはないが、今後も生産体制を工夫しながら、将来的には利益を森林所有者へ還元する仕組みも模索していく。



背景・地域課題 薪需要の高まりを森林組合に関わる人々の増加へつなげる

掛川市森林組合は1963(昭和38)年の設立以来、60年以上にわたり組合員所有の山林を中心に管理・整備し、地域の林業経営に貢献してきた。

これまで林業は高齢化が深刻化していたが、近年は若手の担い手により世代交代が進みつつある。次代の林業を担う人材を育成し、安定的な雇用を創出するためには、やりがいにつながる収入や職務環境の整備が急務である。

一方で多様な働き方や関わり方に対応する仕組みも必要だ。

今回の薪生産、販売の取組みは、薪ストーブユーザーやアウトドアを楽しむ人々による需要の高まりを受けて始まった。地域の農業グループへの生産委託の仕組みは、森林組合と地域の新たな関わりの一例となりそうだ。

また薪販売による一般の人との関わり増加は、森林・林業への理解促進や新たな需要の創出につながる可能性を秘めている。

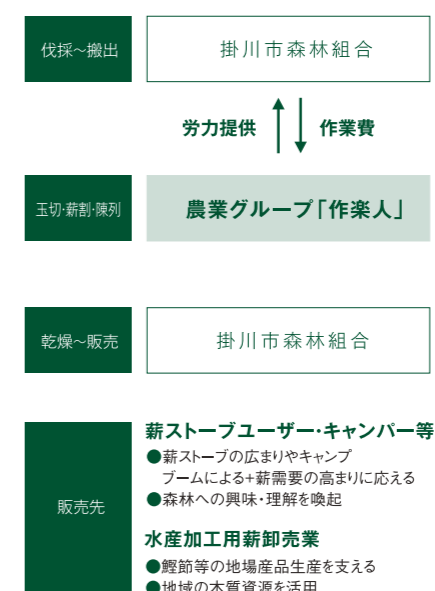


具体的な取組内容 地域団体との連携

森林組合は、作業する地元の人たちのための薪用木材の確保、薪割資機材(チェーンソー、薪割機、安全装備、燃料ほか)等の環境整備を行う。

事務所そばの貯木場に、保管棚54区画を整備した。

生産を委託された地元の農業グループ「作楽人」は2人1組でシフトを組み、1日1～2㎡を目安に薪を割り棚へ並べる。薪は樹種や太さ別で5種類を生産する。生産された薪の乾燥と販売管理は森林組合が担当する。「薪のターミナル」としてのイメージ作りと、より多くの人への周知のため、県道に向けて「木の駅」の看板を設置している。



掛川市森林組合 流通販売課・地域農業グループ 作楽人



森林と林業への理解を深めるツアー「森林プロフェッショナルとE-MTBで行くフォレストツーリズム」

今後の活動 他地域にも横展開できる仕組みを発信

この取組は、掛川以外の地域にも展開できる仕組みを意識しました。森林の資源がさまざまな人の暮らしに近くなっていくことで、地域とのつながりを維持していけると考えたからです。人口減少が進む現代社会にあって、必要とされるのは、リタイア後にも活躍する機会を創出することで地域経済が回り、地域の人々がつながりを持ち続ける体制です。「大きな利益を生むわけではないものの、みんなが少しずつ幸せになっていく仕組み」は、環境問題やヘルスケア、地域づくりといった課題へのアプローチとなる可能性を持っています。また、身近な森林の存在は山で働く側の意識と技術を高めると同時に、そこに人を呼び込み、さらにつながりを深めていくことができます。これからも、薪の販売だけでなく森林と林業への理解を深めることを目指したイベント「森林プロフェッショナルとE-MTBで行くフォレストツーリズム」をはじめ「地域のあちこちで楽しむ要素」をプロデュースし、情報発信する役割を担っていきます。

流通販売課 主任 宮内 貴志

